

ほのぼの塔南

平成30年春号 (No.21)

作成: 広報委員会 高橋みゆき

社会福祉法人 京都福祉サービス協会
総合福祉施設 塔南の園
〒601-8445
京都市南区西九条菅田町4-2
TEL 075-662-2731
FAX 075-662-2735



とうなんのその



<http://www.tounan-no-sono.or.jp>

★地域へのお出かけ★

～防災センター編～

塔南の園の近くにある施設を活用しよう！
災害の意識を高めよう！
と、防災センター体験ツアーを実施しました。

「京都市市民防災センター」は、
車で移動するよりも歩いた方が近い距離にあります。

防災センターの職員の方による説明を受けました。
ご利用者もしっかり聞き入っておられます。



消火を体験するゲームにも参加しました。
消防の服を着て記念撮影をしたり、
いつもと違う特別な体験が楽しめました☆彡



地震体験をおこないました。
めっちゃ揺れます！
震度7の体験を希望されるご利用者も。
体験後、感想をお聞きすると、
「空襲の方がもっとすごかったよ」とのこと。



「地域で働くということ」

私は、塔南の園が所存する南区（九条塔南学区）に生まれ育ち43年になります。両親は鉄工業を営んでおり、猫の手も借りたい程の忙しさで、朝から晩まで休みなく働いていた姿が幼少の私の記憶に残っています。

近所の公園で遊んでいると、車のクラクションが「ブップ」と鳴り、「忠司くーん車乗り！おばちゃんとおいで！幸二と遊んだらええやん！」と、近所のスーパーのおばちゃんが大きな声で手招きしていました。おばちゃんは両親が忙しいのを知っており、自宅に招いては面倒を見てくれました。

おばちゃんはスーパーを営んでおり、いつも私に「好きなお菓子選びや」とお菓子売り場でモジモジしている私のお尻をパンと叩き、「あんたはいつも『きのこの山』やろ、男の子が遠慮したらあかん！」と豪快に笑いました。おばちゃんと幸二と私の3人でお風呂に入り、夕飯を食べさせてもらい車で自宅に送ってもらう事が数えきれない程ありました。おばちゃんの豪快な笑い声と、車の中で楽しそうに鼻歌を歌っていた事を昨日のように覚えています。

時が経ち、現在私は特別養護老人ホーム塔南の園でケアワーカー兼介護支援専門員（ケアマネジャー）として働いています。おばちゃんの担当ケアワーカー兼介護支援専門員（ケアマネジャー）です。

昔話に花を咲かせたいのですが、それは今は叶いません。しかし、おばちゃんのお顔を見ると昔の楽しかった思い出が蘇ってきます。

タバコ屋のおばちゃんは・・・父親のお使いでいつもタバコの銘柄を間違えて買う私に、「あんた所のお父ちゃんはマイルドセブンやで」と笑いながら教えてくれました。

製麺所のおっちゃんは・・・お腹の膨らんだ大きな体でいつもニコニコしながら、「小さいのに偉いな」とグローブのような分厚い手で頭を撫でてくれました。

小さい頃にお世話になった方々が、種々様々な形で現在塔南の園をご利用されています。地域で働くということは、人と人の縁、人と人の巡りあわせだと感じ、これからも南区という地域で働き、幼少の頃にももらった沢山の優しさを返していきたいと思っています。

※本文に出てくる個人名は仮名であり、職種の特定ができないよう表現を一部変えています。

特養 ケアワーカー 谷山 忠司

「お弁当」と「安心」をお届け

塔南の園では、昼食と夕食の配食サービスを行っています。

昼食は月～金曜日で要支援・要介護認定を受けており独居または、ご家族が働いているなどの理由により昼間独居とされている方が対象となっています。お弁当を届けるだけでなく、その方の安否確認もしており、ご家族からも安心していただいています。

夕食は年中無休で行っており、高校生がボランティアでお弁当を配っているところもあり、ご利用者からも大変好評です。



春のレクリエーション

～ 花見 ～

デイサービスでは、3月25日(日)～花見外出を実施しました。
行き先は六孫王神社です。

ショートステイでは、十条公園までフラフラと散歩しました。



ショートステイでは、3色おはぎ作りやカレンダー作り・小物作り等を行いました。

5月のカレンダー



ちづるんコラム vol.4



『食べる』ことと『老い』について

高齢者の多くの方の望みは、"残りの人生は、美味しいものを食べること..."

高齢者あるあるのひとつです。

では、いつまで食べられるのでしょうか？

いつまで美味しいと思って食べられるのでしょうか？

個人差はおおいにありますが、食べられなくなる時が誰にも等しくやってきます。それには理由があるのです。

高齢まで寿命を全うされる方は、実に上手く準備をされます。

持っているものを全て使い果たして、枯れるように旅立たれることが多いようです。それはとても自然なことなのです。

つまり、枯れるためにいろいろな方法で"食べる"ことを拒否されるのです。

"食べない"から命が終わるのではない。最期を迎えるために"食べなくなる"のです。

人の全ての機能は、加齢とともに損なわれます。美味しいと思っていたものも、そうでなくなる日がきます。

それは病気ではなく、自然なことなのです。

"老い"は本当によくできています。

私たちは、そのサインを見逃さない支援をしていきたいと思えます。

言葉で訴えることができる方もできない方も、その時が来るまでは、食事を喜んで食べていただけるように。

塔南の園 医務室 看護課長 中村千鶴



4月から新たに入職した職員の紹介コーナーです

★新入職員への質問★

Q1...氏名

A...藤田 英梨子 (ふじた えいこ)

Q2...趣味

A...絵を画くこと

Q3...介護の仕事を目指したきっかけ

A...祖父に介護が必要になった時、

自分は何も出来なかったことがとても悔しくて、介護職を目指そうと思いました。

Q4...就職に京都福祉サービス協会を選んだ理由

A...就職博で声をかけていただいた際に理念に共感したこと、
研修制度がしっかりしていたのが魅力的だったので選びました。

Q5...未来の私(今後の目標)

A...ご利用者の立場に立って行動でき、笑顔を忘れない職員になりたいです。

★ひとこと★

4月から小春日町ユニットで介護職として勤務しています！
どうぞよろしくお願いいたします！

